

あ と が き

アメリカの金融危機に端を発した世界の金融危機が、日本列島を大きく揺るがし、まさに激動する社会とグローバル化が目の中の現実の世界となった一年でした。ガソリン価格も一年で倍の急騰・急降下があり、自動車産業をはじめ、企業のリストラ及び派遣社員切り等々、市民生活を根底から苦しめました。

そんな時代の中、教育界も教育基本法をはじめ教育三法の一部改正等、戦後教育の中で一番大きな改革の流れとなっています。早速平成21年4月より新学習指導要領による移行措置が小学校から始まります。移行措置に向けて、教育課程の編成も各学校で取り組んだ年でもあります。次代を担い生きるための資質を求め、話題も尽きない昨今の社会状況となっています。特に今回の指導要領の中には、小学校5・6年生に「外国語活動」として、今まで「総合的な学習の時間」における国際理解教育から、さらに踏み込んだ活動が位置づけられました。

さて、私たち教職員は、どんなに社会が変化しようと、目の前の子どもたちに「夢と生きる知恵」を与えていくことが大切なのではないでしょうか。また、我々の生き方自体も子どもたちにとって「生きる意欲」「学ぶ意欲」へとつながるものだと思います。悩みながらも一生懸命実践に励む姿こそ、子どもたちへの一番のメッセージとなるのではないかと信じています。

本校は、県教委より平成16・17年度「レッツ・チャレンジ小学校英語活動推進事業」の指定を受け、18年度には県教委主催「小学校英語活動研究発表大会」において、その成果を発表して参りました。さらに、平成19年度より文科省・県教委指定「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」推進校として、積極的に研究を推進しているところです。

今年度は、今までの研究を生かし「自ら考えよく学び 生き生きと活動する児童の育成」をメインテーマに据え「英語活動の実践を通して」をサブテーマに研究を推進してきました。具体的には、HRTとALTによるTT授業の工夫、HRT単独で行う英語活動の実践、年間指導計画の見直し等を進めてきました。特に研究に関わり大事にしている点として、「HRTなら誰でもできる英語活動」を目指してきました。とはいえ、そこには多くの課題見えてもきました。発音の問題・教材づくりの問題等、子どもたちと一緒に試行錯誤を繰り返しているのが現状です。

6月には公開研究発表会を実施し、300人を超える多くの先生方から貴重なご意見を頂きました。また、2学期には全クラスの自主公開を実施し、さらに拠点校としての責務を果たしてきたことは、大きな成果ではないかと考えております。

これからの時代に生きるために必要な資質とは何か。多様な文化・価値観を持つ人々と、偏見を持たずにコミュニケーションがとれなければ、豊かな人間関係を結ぶことも、協力して共存共生していくこともできません。高根西小学校では、英語活動を通して「ことばを使う」ことの土台となる、「人と関わる態度、自分と異なる人を受け止め積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢」を身に付けさせることも、この研究を推進する中で大切にしていきたいと考えています。

末筆になりましたが、つたない私たちの研究に対して、貴重な御指導・御助言をいただいた、県教育委員会義務教育課氏原指導主事をはじめ、中北教育事務所指導主事の先生方等々、本当にお忙しい中何回も足を運んでいただきましてありがとうございました。また、多方面からご協力していただいた、市教育委員会はじめ地域の方々にも厚くお礼を申し上げ、あとがきといたします。

高根西小 教頭 浅川 孝夫